

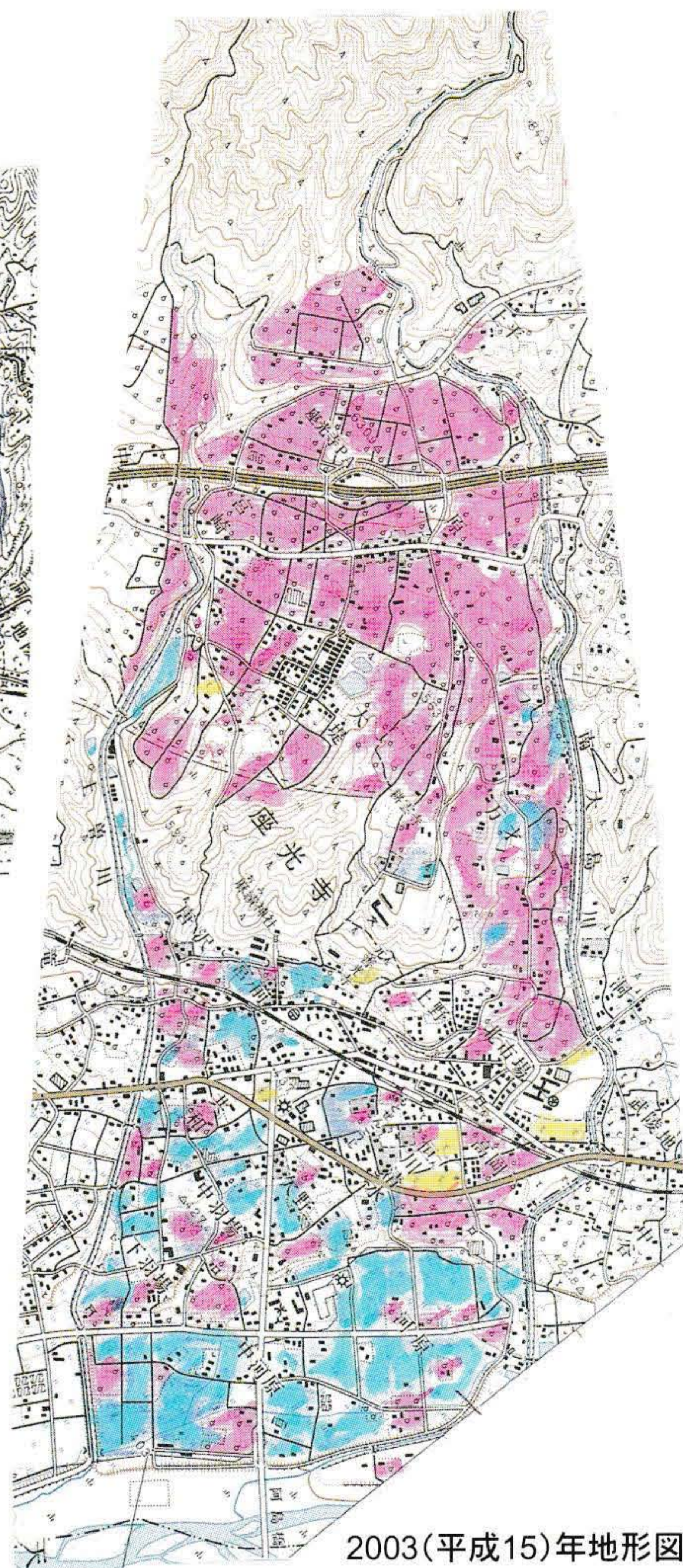
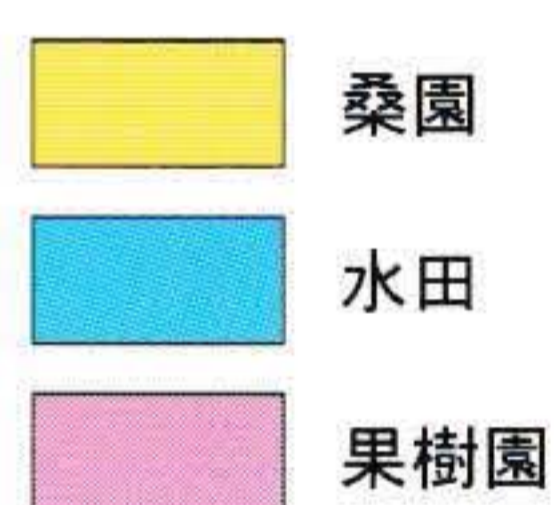
# 土地と人々の暮らし



桑畑



1959(昭和34)年地形図



2003(平成15)年地形図より

座光寺は、天竜川から座光寺富士までの南北に細長い地域で、この地域で行なわれていた産業の中心は古くから農業です。

そのために稲作を行う上で土地改良と用水の問題で人々は解決のために多くの努力をしてきました。下段は湿田が多く腰までつかるといった土地で牛馬はもちろん使用できず人手にたよらなければならない状態でしたが土地改良により、近代的機械の導入が可能になったのです。

一方、上段は水の便が悪く開発が遅れていました。大根の栽培が行われるようになると同じころ、養蚕のための桑の植付がなされ座光寺原の開発が進みました。

その結果、中下段の水の便のよいところは立派な水田地帯となり、上段はその時々<sup>しほんしゅぎ</sup>の資本主義商品経済の流れ<sup>けいざい</sup>にのり桑（養蚕）から現在<sup>いま</sup>はもも、なし、りんごを中心とする一大果樹地帯として発展をとげています。